

平成29年8月1日

平成29年度 後期授業改善プラン「全体計画」

墨田区立業平小学校長

瀬戸 英一

学習状況調査結果の分析と考察

平成29年4月25日に行った学習状況調査の結果を受け、その問題点を分析しながら、本校としての後期授業改善プラン「全体計画」をたてました。この計画に基づいて学力向上への取組を進め、着実な成果が得られるよう、学校全体で実践していきます。

<学力に関する特徴>

- ・ 2～6年の学年ごとに各教科の状況を「正答率」と「標準スコア」による分析を行った結果は、5・6年生の理科以外は、全国値の正答率を上回り、相対的に良好な状況でした。

～観点別に見ていくと～

- ・ 昨年度躓きのあった「話す力・聞く力」は全学年で全国・区平均正答率を上回り、改善が見られました。また、ここ数年各学年で弱みのあった「書く力」は、2年で1P全国平均正答率を下回りましたが、他学年では5～10P全国平均正答率を上回り安定傾向に転じています。
- ・ 2年生は、算数では全ての観点で全国・区の平均正答率を上回り安定した力を発揮しましたが、国語にやや弱みが見られました。
- ・ 3年生は、算数で4観点のうち3観点で区または全国の平均正答率を下回り、やや躓きが見られました。
- ・ 4年生は4教科17観点全てで、全国・区の平均正答率を上回り、安定した学力を発揮しました。
- ・ 5・6年生は、昨年引き続き理科に弱みがあり、改善にはまだ少し時間を要します。

～教科別に見ていくと～

- ・ 国語では、3年生2観点と3年生1観点で全国または区の平均正答率を

下回りましたが、それ以外は各学年安定した学力を身につけつつあります。

- ・社会では、5・6年生の「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」にやや躓きがみられましたが、概ね良好でした。
- ・算数では、3年生以外はすべての観点で、全国・区平均正答率を上回りました。
- ・理科では、4年生が、全国・区平均正答率を全ての観点で大きく上回り学力の定着が見られました。しかし、5年生では3観点で全国平均正答率を下回り、6年生は、3観点で全国・区平均正答率を下回る結果となり、学力の定着が不安定です。
- ・総合的に判断すると、各学年とも学習規律・学習環境の改善が進み、教科の基礎・基本が徐々に定着してきています。しかし、各学年に在籍する特別な支援を必要とする児童の増加にともない、「個に応じた指導」・「繰り返し指導」・「補充的な学習を取り入れた指導（Remedial 教育）」など「指導方法や指導体制」を工夫して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る必要があると考えます。また、4年生のような学年に対しては、発展学習を工夫して取り入れていくことも必要です。

重点的に取り組む課題及び課題解決のための目標

重点的に取り組む課題

- ① 授業改善プランにもとづいて毎時間の授業での指導方法や指導体制の工夫、評価を徹底する。
- ② 「放課後すみだ塾」「放課後学習教室」「特別支援教室」を設定し、補充指導を計画的に実施し、個別指導を強化する。
- ③ 国語「言語についての知識・理解・技能」の向上を目指し、授業改善を全校で進める。
- ④ 理科では、観察・実験を中心とした主体的な問題解決学習に取り組むとともに、単元終了ごとに振り返りの学習を実施する。
- ⑤ 社会では、児童が社会的事象を自ら調べて考え判断し、それに基づいて説明したりする場面を意図的に設定していく。

重点的に取り組む課題解決のための目標 < 7つの重点 >

- ①学習規律（話の聞き方、ノートの書き方等）業平ルール¹の維持徹底を図る。
- ②授業改善プランに基づく授業実践 毎時間の授業の中で、「学習のめあて」をしっかりと立て、その達成のための指導上の工夫を必ず取り入れ、めあての達成を図る。（授業のPDCAの確立）
- ③個別支援の必要な児童への特別指導を強化し、授業時はなりちゃんルーム（特別支援教室）での取り出し指導、放課後は、「放課後すみだ塾」「放課後学習教室」を実施し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- ④英語活動を中心に研究授業を通して、教員の指導力の向上目指すとともに、校内研究の充実を図る。また、NT・留学生・保護者ボランティア等と連携し、積極的に授業を公開し、墨田区の英語活動の充実に取り組む。
- ⑤算数の授業では、ノート指導の徹底・問題解決型の学習展開の工夫・少人数指導の工夫を図る。
国語の授業では、多様な文章を書く活動を通して、取材・構成・推敲についての理解の定着を図るとともに、文脈に即した内容を把握し、記述する力を育成する。
理科の授業では、体験的な活動を多く取り入れ、既存の経験と関連付けて考察させるなど、実感を伴った理解を図る。
- ⑥読書コーナーの整備を行い、読書活動をさらに充実させ、読書好きの児童の育成や読書習慣の形成とともに読解力や想像力の向上につなげていく。また、目的に応じて、文章全体の構成を的確に捉え、内容を正しく読む指導を工夫する。
- ⑦家庭学習の習慣確立のために、保護者と連携を図り、家庭での学習時刻・時間・場所の設定、などについて働きかける（親子学習の実施）とともに、日々の授業との関連を十分に考慮した宿題等の課題を与えることで、適切な宿題や課題の設定とやりきる指導・援助を行う。

設定した目標を達成するための具体的な取組：取組指標

(1) 知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス

- ・ 指導方法や指導体制を工夫し、「分かる授業」「できるようになる授業」を展開することで、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。そのため、授業時数の確保を確実に行う。(各学年、学級で月末には授業時数状況の点検と確認を行い、確実に教科・領域の指導を行うようにする。)
- ・ 子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むために、資料を使った発表や調べたことを文章に書くことなどの機会を多く取り入れていき、知識・技能を活用する学習活動を各教科で行っていくことが必要である。(図書室の「調べ学習コーナー」を充実させる。)
- ・ 校内研究の充実のために講師を招いて研究授業を10回実施する。授業公開(土曜授業・学校公開)は随時実施し、実践的な研修の頻度を高めていく。(区広報課の取材協力等も積極的に行う)
- ・ 若手教員(初任者、2～5年次)を中心に、指導力向上に向けた授業研究を伴う校内研修会を行うとともに若手研(業平ゼミナール)を随時開催する。

(2) 家庭との連携を図った学習習慣の確立

- ・ 学習指導の一貫として、全学級で適切な宿題、課題を継続して出し、家庭での学習習慣を付けさせる。家庭できちんとやれない児童へは、保護者と協力して家庭学習への支援を行う。(親子学習の実施)
- ・ 家庭での読書習慣を広げるために、6・11月を「読書月間」とし、全員が10冊以上の読書にチャレンジする。読書に関する指導を充実させ、朝読書、図書館ボランティアの読み聞かせ等を活用し、読解力などの確かな学力の向上につなげる。

(3) 個に応じた指導推進のための取組

- ・ 全校で週3回、年間90回程度の「放課後すみだ塾」・「放課後学習教室」を実施する。
- ・ 特別支援教室(なりちゃんルーム)を授業時での個別指導(算数・国語)に生かす。
- ・ 放課後学習の内容を充実させるそのため、指導員と担任との連携を密

にするための「個人連絡ノート」を活用して、確かな学力の定着につなげていく。

- ・ 個人学習プロフィールを活用して、内容での個別化、きめ細かい指導を徹底する。
- ・ 低学年中心に放課後に個別指導の時間をとって学力向上にあたる。

設定した目標の達成度を測るための検証可能な指標：成果指標

- ①各教科の各種テスト（ワークテスト）の達成度を平均85点以上にする。
- ②東京ベーシックドリルの積極的な活用を図り、「振り返り学習」を強化する。（単元終了毎、学期毎等）
- ③家庭学習の定着で、宿題忘れゼロを目指す。当面7%以下に減らす。
- ④特色ある教育推進校として、SUMIDA ENGLISH を活用した授業公開を積極的に行っていく。また、SUMIDA ENGLISH の学校独自の資料を作成する。
- ⑤東京都のオリンピック・パラリンピック教育アワード校として、また、アクティブライフ研究実践校として、国際理解教育と体力向上に積極的に取り組んでいく。
- ⑥年2回の読書月間の取り組みで、年間10冊以上の読破児童を9割にする。